

第1学年 英語科学習指導・評価案

令和元年 7月25日 ○校時
 那覇市立松島中学校1年○組 30名
 指導者 宮里 征吾

1 単元名 Unit 6 オーストラリアの兄 『NEW HORIZON English Course 1 pp. 67-75』

2 単元の目標

- (1) 自分と相手以外の人やものについて話すことができる。
 (2) 自分と相手以外の人やものについてたずねることができる。

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、咲がスピーチでオーストラリアにいる兄について生活ぶりを紹介し、その内容についてアレックスが質問したり、さらにオーストラリアに生息する動物について咲がベッキーと対話をしたりする、という展開になっている。

言語材料としては、一般動詞の三人称単数現在形の肯定文、疑問文とその応答、否定文などが扱われる。いずれも、第三者を紹介する場面で必ず用いられる重要な文法事項である。

(2) 指導観

本単元では、身近な人、または生徒がよく知っている人やものなどを紹介するスピーチという場面を授業でも活かしながら言語活動を展開したい。スピーチでは口頭説明だけでなく、写真などを用意した方が情報が伝わりやすいことや、スピーチが終わった後は興味を持ったことについて聞き手が質問をするなど、生徒が実際に同様の場面ですべき行動などについて、気付かせ実践させることに本教材は適する。また、多くの生徒は小学校の外国語活動において、人物や動物ができること (He/She can...) を紹介する活動を体験している。生徒に馴染みのある活動を取り入れることで、スムーズに目標文法の導入を行いたい。Can については中学校では未習ではあるが、生徒の実態に合わせて説明する。

4 単元の評価規準

(ア) コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	(イ) 外国語表現の能力	(ウ) 外国語理解の能力	(エ) 言語や文化についての 知識・理解
自分と相手以外の人やものについての情報を伝えたり、たずねたり、答えようとしている。	自分と相手以外の人やものについての情報を伝えたり、たずねたり、答えることができる	話し手の友だちや家族についての紹介や、大切なもの等についての説明を理解することができる。	三人称単数現在形の文の形・意味・用法に関する知識を身につけている。

5 指導と評価の計画 (7 時間)

時間	○ねらい ・学習活動	単元の評価規準	評価方法
1	○友だちや家族などについて紹介することができる。 ・文法事項の口頭導入 ・文法まとめ ・定着活動 ・コミュニカティブ・ドリル	(イ) (エ)	後日パフォーマンステスト及び単元テスト
2	○咲のお兄さんの紹介を聞いて、理解することができる。 ・帯活動 (Picture Description) ・本文の口頭導入 ・内容理解 ・新出単語 ・音読及びリテリング	(ウ)	後日単元テスト

3	○身近な人についてたずねたり、答えたりすることができる。 ・帯活動 (Picture Description) ・文法事項の口頭導入 ・文法まとめ ・定着活動 ・コミュニカティブ・ドリル	(イ) (エ)	後日パフォーマンステスト及び 単元テスト
4	○咲のお兄さんの紹介を聞いて、理解することができる。 ・帯活動 (Picture Description) ・本文の口頭導入 ・内容理解 ・新出単語 ・音読	(ウ)	後日単元テスト
5	○身近な人が「・・・しない」ということを説明できる。 ・帯活動 (Picture Description) ・文法事項の口頭導入 ・文法まとめ ・定着活動 ・コミュニカティブ・ドリル	(イ) (エ)	後日パフォーマンステスト及び 単元テスト
6	○咲のお兄さんの紹介を聞いて、理解することができる。 ・帯活動 (Picture Description) ・本文の口頭導入 ・内容理解 ・新出単語 ・音読	(ウ)	後日単元テスト
7	○身近な人を紹介することができる。 ・パフォーマンステスト *ルーブリック参照	(ア) (イ)	

6 単元末におけるパフォーマンステスト 「身近な人の紹介」

	5点	3点	1点
内容	聞き手が初めて知るような興味深い情報がある。 動詞が4種類以上使われている。	紹介する人の様々な情報が含まれている。 動詞が3種類以上使われている。	紹介する人の様々な情報が含まれている。 動詞が2種類以上使われている。
語数	35語以上	25語以上	15語以上
伝え方	相手を引き込む質問がある 効果的なジェスチャー 大きな声で発表できた。 (以上の3つ当てはまる)	相手を引き込む質問がある 効果的なジェスチャー 大きな声で発表できた。 (以上の2つ当てはまる)	相手を引き込む質問がある 効果的なジェスチャー 大きな声で発表できた。 (以上の1つ当てはまる)

A+・・・15点

A・・・11～13点

B・・・7～9点

C・・・3～5点

7 本時の学習 【1／7時間】

(1) 目標

○友だちや家族、好きな有名人などについて紹介することができる。

(2) 本時の授業の工夫

○授業の冒頭で「We Can 1」のUnit 5の内容を用いることで、興味・関心を喚起する。

(3) 展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評価項目 (方法)
導 入	○Small Talk	・ Do you remember this book? You used it when you were in elementary school. Let's watch videos. * We can 1 の p.36 の映像を見る。	
展 開	○Oral Interaction ○目標の提示 ○文法まとめ ○定着活動 ○コミュニカティブ・ドリル	・ 指導者の家族の写真や映像を提示しながら、目標文法事項を導入する。 ・ 友だちや家族、好きな有名人などについて紹介することができる。 ・ 生徒がノートに文法のポイントを整理する。 ・ 教科書 p.67 基本練習 ・ 有名人の写真などを提示し、ペアで説明し合う。一人は写真が見えないように後ろを向く。もう一人が説明する。	後日パフォーマンス テスト
終 末	本時のまとめ・振り返り	○本時で話した内容で印象に残っているものを振り返りシートに書く。	

